

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和5年3月1日

事業所名 キッズワールドサポート2組

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3		訓練室は、利用児が落ち着けるように工夫をしている	訓練室は適切である。いろんなことに、活用していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	0	0	5	募集願いをしている	職員の日々の配置は適切ではない。ネット募集や条件を変えては
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1		トイレなどの手すり等を設置している。	事業所には段差はない
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	4		朝のミーティングで情報共有している。	各事業所での改善するための話し合いはある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	1	保護者評価を職員と検討している。	保護者の意見を大事にして改善に向け協力している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	1	会社のホームページに記載している。	ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		第三者が入ることで改善点が見えてくるので今後第三者からの評価をお願いしたい。	今後取り組んでいきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		1	これから研修会に参加していきたい。	コロナの影響等で研修ができなかったため質の向上のため勉強会を行う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	4		職員会議等で適切に計画作成をしている。	子どもと保護者のニーズや課題を分析し、職員会議等を行い計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		1	子どものアセスメントツールを活用し適切な支援を工夫する。	子どもたちの状況を把握出来るようアセスメントを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	4		職員間で話し合いアイデア出し合い工夫する。	行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		職員間で話し合いアイデア出し合い工夫する。	工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		一人一人の課題を把握し、支援を行っている。	課題を決めて、支援をしているが、職員不足のため計画した支援ができていない事もある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	2		個別支援計画を作成し支援を行っている。	計画し作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		職員間で共通理解を確認する。	ミーティング等で話し合っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1		送迎で確認できないこともあるが、共通理解を図るために、申し送りをしている。	送迎の関係でできない日もある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2		支援の振り返りをし改善につなげる。	日々の支援記録を正しく記載し、ミーティング等で話し合っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	1		定期的にモニタリングを実施している。	モニタリングを行い見直しを図っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	3		職員と話し合いマンネリ化しないように心掛けている	5領域基づいての支援を行っている。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いい	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		時間を調整しふさわしい者が参加出来るようにしている。	管理者(児発管)が参加し会議を行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		保護者やスクリレ等で確認して、担当の先生にも確認をする。	情報共有し連絡調整を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	1	児童の基本情報として主治医を個人ファイルに記載している。	医療ケアの必要な児童が入所になった際は、主治医と連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1		情報共有に努める。	会議を行い相互理解図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1		3	本児の困り感など様子を細かく伝え安心して利用できるように行う	会議を行い相互理解図っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4	1	連携を取り合い情報提供をしていく。	児童発達支援センター等の支援内容等情報を提供を連携し共通理解をする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	4	近隣の学童のイベントに参加したり、地域の自治体の行事等に参加しました。	交流する機会は少ないが、これからは機会があれば積極的交流していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4	1		交流する機会は無いが、これからは機会があれば交流出来ればと思う。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		1	職員間で子どもの様子話し合い共通理解を図っている。	職員と話し合い子どもの発達状況を保護者に伝え、共通理解をしている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			5	保護者との話し合いを積極的にしていきます。	保護者と話し合い共通理解をしペアレントトレーニング等の支援をしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		1	契約時に説明をしています。	説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		1	子育ての悩みを相談できる環境に務める。	保護者の子育ての悩み、相談を聞き共感し解決につながるよう支援する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	4	コロナ禍のため交流する機会ができていないので、今後保護者同士の連携を図っていきたい。	コロナも落ち着いてきたので感染症に配慮しながら、交流する機会を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		1	子どもや保護者から相談があれば早急に対応し職員間でも話し合っている。	保護者からの苦情について対応体制を整え適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		1	活動の様子を保護者に発信することで子どもの様子を伝える事が出来る。	活動の様子行事等を写真を配布して保護者に発信をしている。
	35	個人情報に十分注意している		5		写真の取り方名前情報の流失が無いよう気をつける。	個人の顔出し、名前、情報十分に注意している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		5		子どもや保護者意思の疎通を職員間共有する。	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達に配慮し行う。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	3	地域の行事に参加していく。	これから地域との交流があれば参加できればと思います。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4		委員会の設立をする。	マニュアルの有無があり、今後会社で共通理解を図り、緊急時に対応していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		子どもが理解し慌てず避難、訓練が出来るように配慮する。	定期的に避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2		研修後自己診断や感想などをもとに虐待防止に務める	全職員が研修に参加出来るように時間を配慮し、虐待防止委員会を設立し、動画を見たりグループワークを行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3	1	身体拘束について職員間で話し合いをし共通理解を図る。	今後身体拘束行う必要がある場合組織に相談し、子どもや保護者に十分に説明をしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	2	3		職員間で共通理解を図る。	医師の指示書に基づき対応を行う
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		ヒヤリハット作成し共有を図り、支援の意識を高める	ヒヤリハットを作成し共有している。